

## 論文審査の結果の要旨

氏名：永 井 多賀子

専攻分野の名称：博士（医学）

論文題名：Verification of psychological factors related to health-related quality of life in elderly knee osteoarthritis: A prospective cohort study

（高齢変形性膝関節症患者における健康関連 QOL 推移と関連因子の検証）

審査委員：（主 査） 教授 兼 板 佳 孝

（副 査） 教授 中 嶋 秀 人 教授 岩 崎 賢 一

教授 吉 野 篤 緒

高齢化社会を迎えた我が国において高齢者の運動器疾患に伴う QOL の低下は重要な課題である。特に変形性膝関節症の患者は我が国で 2,530 万人いると推計され、本疾患患者の QOL については大きな関心が寄せられている。本研究は、高齢者の変形性膝関節症の健康関連 QOL に着目し、これに関連する要因を「疾患の重症度」、「レントゲン分類」、「手段的日常生活動作」、「転倒恐怖感」、「抑うつ度」のなかから検索したものである。対象はリハビリテーションが実施された 65 歳以上の合計 62 例（男性 13 例、女性 49 例）の変形性膝関節症の患者であり、外科的治療を受けた者は除外された。データの収集は、リハビリテーション開始前と、開始 1 ヶ月後、3 ヶ月後、リハビリテーション終了後に行われた。健康関連 QOL の尺度には SF-8 が用いられ、さらにその回答から身体的サマリースコアと精神的サマリースコアが算出された。重回帰分析の結果、身体的サマリースコアについては、リハビリテーション開始前では「レントゲン分類」が、リハビリテーション開始 1 ヶ月後と 3 ヶ月後では「転倒恐怖感」が、リハビリテーション終了後では「抑うつ度」がそれぞれ有意に関係していた。一方、精神的サマリースコアについては、リハビリテーション開始前では「抑うつ度」が、リハビリテーション開始 1 ヶ月後、3 ヶ月後と終了後では「転倒恐怖感」がそれぞれ有意に関係していた。これらの研究結果より、申請者は、変形性膝関節症の患者が有する心理的な要因も念頭に置いて今後の治療に当たることが重要であると考察した。

本研究の優れた点は、調査時期をリハビリテーション開始前、開始 1 ヶ月後、3 ヶ月後、終了後と複数回設定したことである。本研究結果については、その新規性は高く、整形外科領域の日常臨床診療に大きく寄与するものである。

よって本論文は、博士（医学）の学位を授与されるのに値するものと認める。

以 上

令和 3 年 2 月 17 日